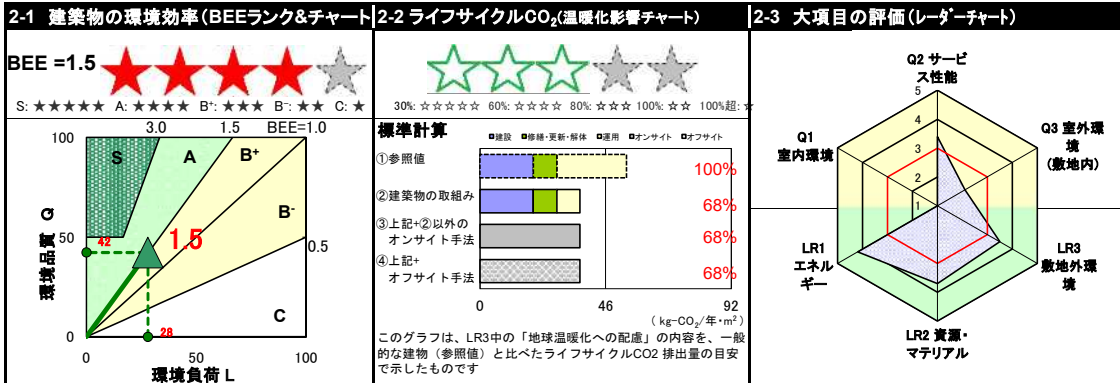
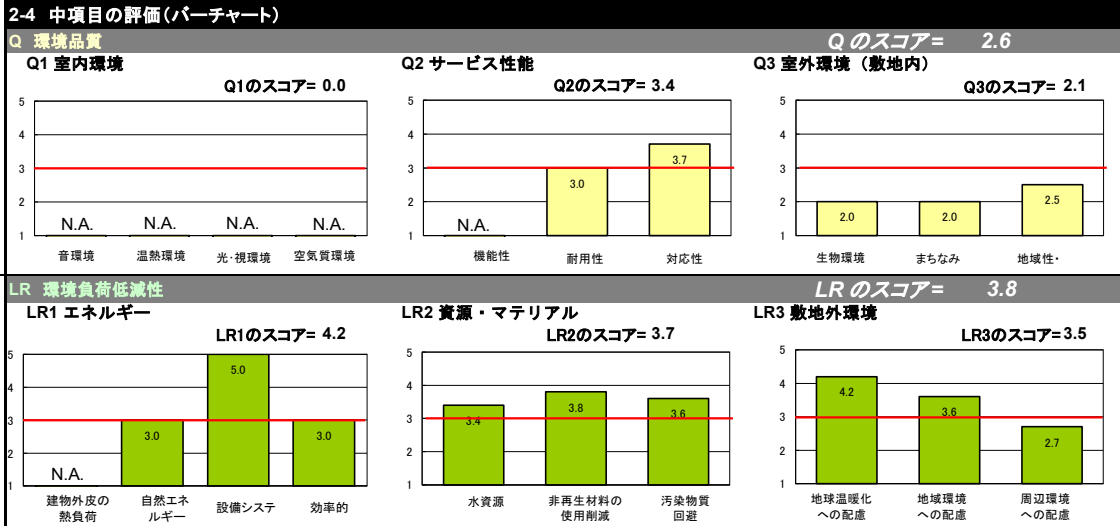


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	八潮建材工業株式会社 名古屋工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊明市沓掛町中川1-1	構造	S造
用途地域	白地地域、市街化調整区域、法第22条区域	平均居住人員	20 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,120 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年9月 予定	評価の実施日	2026年4月16日
敷地面積	12,288 m ²	作成者	廣瀬 智之
建築面積	4,154 m ²	確認日	2026年4月22日
延床面積	4,638 m ²	確認者	廣瀬 智之



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	4.2	③敷地内の緑化
		2.0
		外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
②資源の有効活用	3.4	21.1 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
④地域材の活用	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
八潮建材工業株式会社 名古屋工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄						評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質																2.6	
Q1 室内環境																	
1 音環境																	
1.1 室内騒音レベル										3.0	-	-	-	-	-		
1.2 遮音										-	-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能										-	-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能										-	-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-	-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-	-	-	-	-	-		
1.3 吸音										-	-	-	-	-	-		
2 温熱環境										-	-	-	-	-	-		
2.1 室温制御										-	-	-	-	-	-		
1 室温										3.0	-	-	-	-	-		
2 外皮性能										3.0	-	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性										3.0	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御										3.0	-	-	-	-	-		
2.3 空調方式										3.0	-	-	-	-	-		
3 光・視環境										-	-	-	-	-	-		
3.1 昼光利用										-	-	-	-	-	-		
1 昼光率										3.0	-	-	-	-	-		
2 方位別開口										3.0	-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備										3.0	-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策										-	-	-	-	-	-		
1 昼光制御										5.0	-	-	-	-	-		
3.3 照度										3.0	-	-	-	-	-		
3.4 照明制御										3.0	-	-	-	-	-		
4 空気質環境										-	-	-	-	-	-		
4.1 発生源対策										-	-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質										3.0	-	-	-	-	-		
4.2 換気										-	-	-	-	-	-		
1 換気量										3.0	-	-	-	-	-		
2 自然換気性能										3.0	-	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮										3.0	-	-	-	-	-		
4.3 運用管理										-	-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視										3.0	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御										3.0	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能										-	-	0.43	-	-	-	3.4	
1 機能性										-	-	-	-	-	-		
1.1 機能性・使いやすさ										-	-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性										3.0	-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応										3.0	-	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画			独自							3.0	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性										-	-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)										3.0	-	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース										3.0	-	-	-	-	-		
3 内装計画										3.0	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理										-	-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計										3.0	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保										-	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性										0.5	3.0	0.52	-	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振										0.4	3.0	0.48	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										3.0	3.0	0.80	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能										3.0	3.0	0.20	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数										0.3	3.3	0.33	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数										-	3.0	0.23	-	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔			②							-	3.0	0.23	-	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔										-	3.0	0.09	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										-	3.0	0.08	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										-	5.0	0.15	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔										-	3.0	0.23	-	-	-		
2.4 信頼性										0.1	2.8	0.19	-	-	-		
1 空調・換気設備										3.0	3.0	0.20	-	-	-		
2 給排水・衛生設備										3.0	2.0	0.20	-	-	-		
3 電気設備			②							3.0	3.0	0.20	-	-	-		
4 機械・配管支持方法										3.0	3.0	0.20	-	-	-		
5 通信・情報設備										3.0	3.0	0.20	-	-	-		

給水:B、汚水・雑排水:B、消火:C

3 対応性・更新性					0.4	3.7	0.48	-	-	-	3.7	
3.1 空間のゆとり			②	3.9m以上 [壁長さ比率:0.08]<0.1 ケーブルラック、電線管敷居 配線管敷居	0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1 階高のゆとり					-	5.0	0.60	-	-	-		
2 空間の形状・自由さ					3.0	5.0	0.40	-	-	-		
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	-	-		
3.3 設備の更新性					0.3	3.4	0.38	-	-	-		
1 空調配管の更新性					-	3.0	0.17	-	-	-		
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-		
3 電気配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	-		
4 通信配線の更新性					3.0	5.0	0.11	-	-	-		
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-		
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)							-	0.57	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出					独自③		-	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮					独自④		-	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30	-	-	2.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.8		
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	4.2		
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-	-	-	-		
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.13	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化				BEIm=0.33	3.0	5.0	0.63	-	-	5.0		
4 効率的運用					0.2	3.0	0.25	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-			
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-			
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-			
集合住宅の評価					-	-	-	-	-			
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-			
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	3.7		
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	3.4		
1.1 節水					3.0	4.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.8	0.63	-	-	3.8		
2.1 材料使用量の削減			② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21	-	-	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	5.0	0.21	-	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	5.0	0.25	-	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22	-	-	3.6		
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68	-	-			
1 消火剤					-	-	-	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)					-	5.0	0.50	-	-			
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-			
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.5		
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率68%	-	4.2	0.33	-	-	4.2		
2 地域環境への配慮					0.3	3.6	0.33	-	-	3.6		
2.1 大気汚染防止					-	5.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.5	0.25	-	-			
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-			
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-			
3 交通負荷抑制			独自	駐輪(車)場・トラック待機スペースの確保、駐車場の導入路の配慮	-	5.0	0.25	-	-			
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮					0.3	2.7	0.33	-	-	2.7		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-			
1 騒音			独自		-	3.0	0.50	-	-			
2 振動			独自		-	3.0	0.50	-	-			
3 悪臭					-	-	-	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-			
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-			
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	-			
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制					0.2	1.6	0.20	-	-			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	1.0	0.70	-	-			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

八潮建材工業株式会社 名古屋工場

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10	3.4
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:21.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 八潮建材工業株式会社 名古屋工場

計画上の配慮事項	
総合	建物のエネルギー消費量を削減し、ライフサイクルCO2排出率を抑えることで、地球温暖化防止に努めた。
Q1 室内環境	評価対象外。
Q2 サービス性能	空間のゆとりに配慮することにより、将来への対応性・更新性を高めている。
Q3 室外環境(敷地内)	特になし。
LR1 エネルギー	一次エネルギー消費量の削減により、カーボンニュートラルに貢献している。
LR2 資源・マテリアル	部材の再利用可能性向上への取組みを行うことで、非再生性資源の使用量を削減している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を抑制することにより、地球温暖化への配慮を行っている。
その他	特になし。